

1 町田駅周辺地区都市再生整備計画

町田市中心市街地の賑わいや交流の創出に向けて、原町田大通り及び原町田中央通りを恒常的に活用するために、2021年1月に「町田駅周辺地区都市再生整備計画」を策定しました。

この計画では、町田市中心市街地が選ばれ続ける活気あるまちであるために「**町田市中心市街地まちづくり計画**」に基づく、プロジェクト2「個性と魅力あふれる商店街づくりプロジェクト」及びプロジェクト6「原町田大通り憩いと賑わい空間を創造するプロジェクト」を推進することを目的としています。

計画の概要として、「賑わいや交流にあふれるまちの実現」を大目標として設定し、以下の3つの目標に合わせて7つの事業を掲げています。

目標1：多様なアクティビティが生まれる空間の創出（①**原町田大通り滞留空間整備**、②**滞留空間の創出**、③交流拠点の社会実験）

目標2：安心してゆっくり過ごせる空間の創出（④原町田大通り荷捌きスペースの整備、⑤原町田中央通りガイドラインの整備）

目標3：また訪れたくなる魅力ある空間の創出（⑥広場公園（まちだの泉）の移設、⑦エリアマネジメント広告の掲出）

2 滞留空間整備の方向性

2021年度及び2022年度に実施した原町田大通り社会実験の実施を踏まえ、原町田大通り上に整備する滞留空間を魅力ある空間にするために以下の方向性で整備します。

①滞留空間に植栽やデザイン性の高いベンチ等を設置する。

②滞留空間の幅広い活用のために、設置するベンチ等は配置が変更できるものにする。

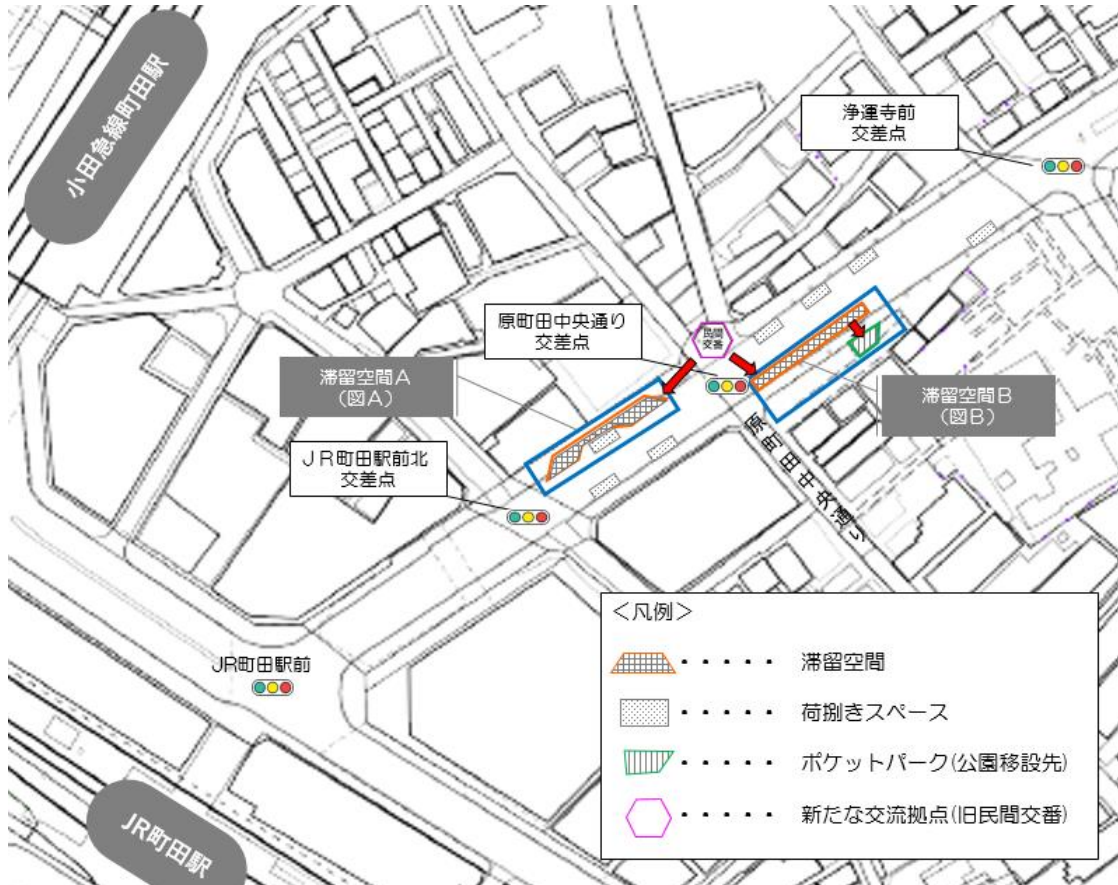
③道路上の設置物は、歩行者の通行を妨げないように配慮する。

④近隣店舗の視認性を確保するため、高さのあるものは設置しない。

⑤整備後の管理・運営は、町田市と都市再生推進法人が、まちなかの事業者の方等と協力して行う。

3 滞留空間の配置（詳細は4ページ参照）

滞留空間は、新たな交流拠点として活用を予定している旧民間交番との一体的な活用を促進するよう配置します。



町田市中心市街地まちづくり計画
2016年度-2030年度



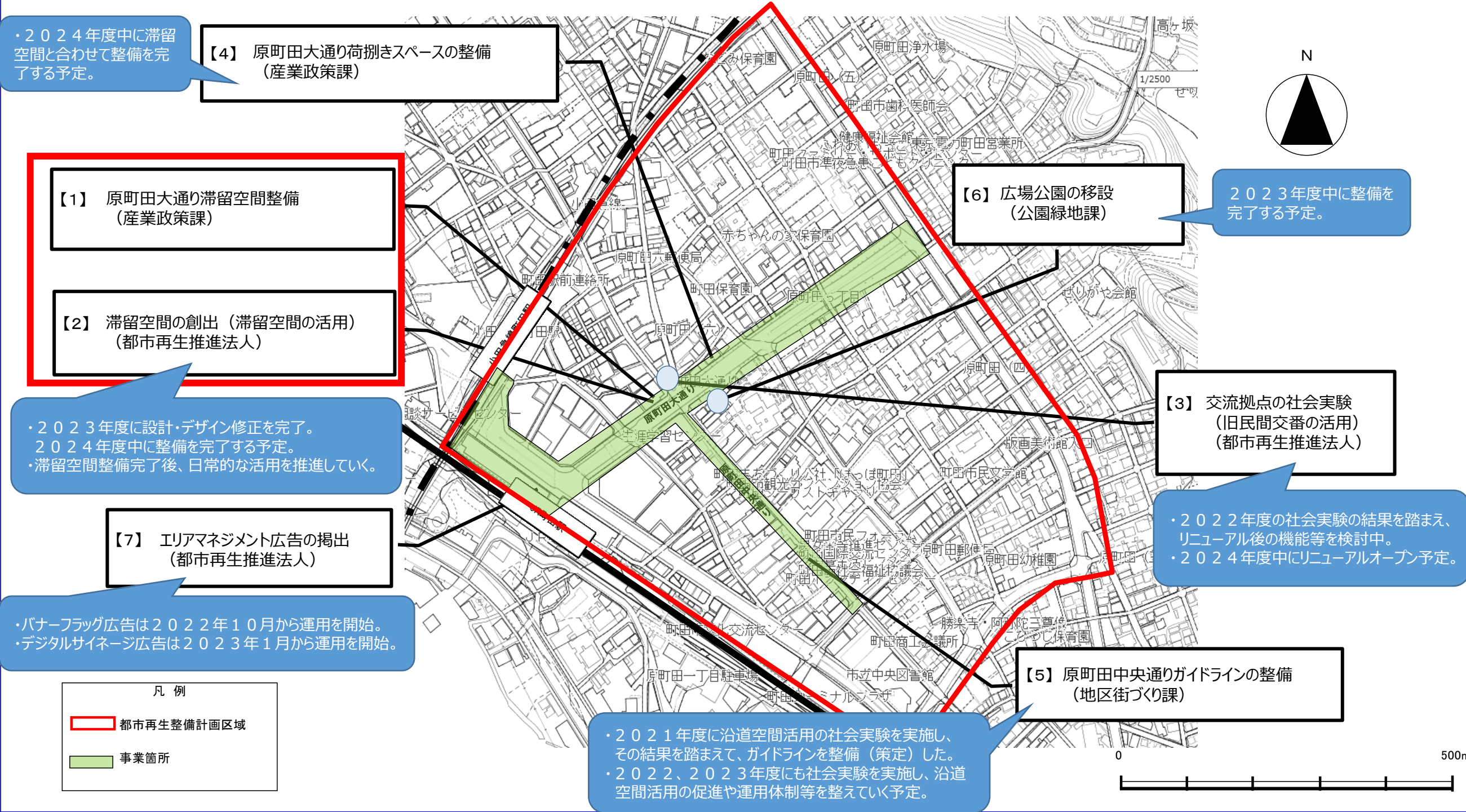
4 整備までのスケジュール ※契約状況等により、スケジュールは変更となる可能性があります。

実施主体	整備項目	内容	2023年度			2024年度											
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
市	ポケットパーク・電線共同溝工事	電線共同溝設置工事															
		ポケットパーク整備工事															
	原町田大通り滞留空間等整備工事	事業説明会															
		工事準備															
	旧民間交番、まちだの泉解体・撤去工事	滞留空間等整備工事															★
都市再生推進法人	新たな交流拠点整備工事	工事準備															
		解体・撤去工事															
		各種申請手続き															
		新たな交流拠点整備工事オープン準備															★

【資料1】町田駅周辺地区都市再生整備計画の取り組み状況

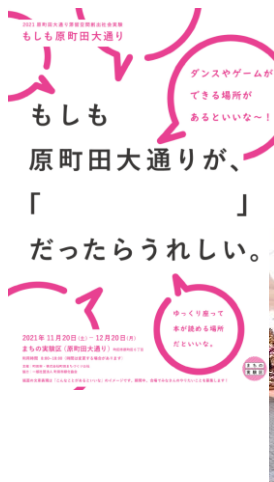
都市再生整備計画(町田駅周辺地区)概要図

期間	2021(R3)年度～2024(R6)年度	全体事業費		市：171.6百万円 公社：32.2百万円			
目標	大目標：賑わいや交流に溢れるまちの実現 目標1：多様なアクティビティが生まれる空間の創出 目標2：安心してゆっくり過ごせる空間の創出 目標3：また訪れたい魅力ある空間の創出	面積		24.6 ha			
		代表的な指標	アクティビティの数	種類	4	(R2年度) →	8 (R6年度)
			滞在時間2時間以上の人の割合	%	52.40%	(H31年度) →	55.20% (R6年度)
			町田駅周辺の中心街を訪れる頻度	%	41.70%	(H31年度) →	48.40% (R6年度)



【資料2】2021年度・2022年度実施：原町田大通りにおける社会実験の結果（概要版）

2021原町田大通り滞留空間創出社会実験～もしも原町田大通り～



○概要

都市再生推進法人である(株)町田まちづくり公社とともに、原町田大通り上に「パークレット※1」を設置し、訪れた方による日常的な使われ方を検証した。
※1…車道の一部を転用した、休憩や飲食ができる「人」のための空間。

【日時】2021年11月20日（土）～12月20日（月） 午前8時～午後6時

○滞留空間の振り返り



- ✓ 休憩、飲食、読書などさまざまな使い方がされ、普段の原町田大通りでは目にすることのない賑わいや交流が創出された。
- ✓ 滞留空間の利用者調査では、社会実験時の滞留空間が「良かった」と回答した人は50%（「良くなかった」は3%と少数だった）。
- ✓ 滞留空間周辺の歩行者調査では、社会実験時の滞留空間を「利用してみたい」と回答した人は56%（「利用することはない」は12%と少数だった）。
- ✓ ステッカーによる意見収集では、原町田大通りに休憩場所や座れる場所、緑、自然、オープンカフェがあると嬉しいという意見が多くあった。



- ✓ 高さがある設置物（トレーラーハウス、オーニング）によって、近隣店舗の視認性を低下させる等の影響を与えてしまった。
- ✓ 集客を目的としたイベントは、歩行者の妨げになってしまった。

2022年度原町田中央通り・原町田大通り社会実験～Machida weekend STREET～



○概要

原町田中央通り及び原町田大通りの沿道空間の貸出しを行い、日替わりでさまざまなお店やワークショップ等の出店を行った。原町田大通りでは、都市再生推進法人である(株)町田まちづくり公社とともに、原町田大通りのポケットパークを使って滞留空間を創出し、活用方法等を検証した。

【日時】2022年10月8日（土）～11月6日（日） 午前11時～午後7時※2

※2…滞留空間内の休憩スペースは社会実験期間中、夜間も含めて終日開放

○滞留空間の振り返り



- ✓ 来街者調査の結果、通り沿いにあった方が良い機能としてベンチが85.4%、キッチンカーの出店が69.6%、緑が89.2%だったことから、いずれも多くの人から求められている。
- ✓ 滞留空間内に設置したベンチや植栽を可動式に設置したことで、出店の貸出し時等にフレキシブルな活用ができた。
- ✓ 休憩スペースの利用者の多くは、ポケットパーク内の既存のスツールではなく、社会実験で新たに設置したデザイン性の高い木製ベンチを利用していた。



- ✓ ポケットパークはJR町田駅側から見ると死角になっていることから、目立たなかった。
- ✓ 休憩スペースとキッチンカーの出店場所との距離があったため、キッチンカーと休憩スペースをセットで利用する人が少なかった。

滞留空間整備の方向性

沿道に賑わいが生まれ、来街者の憩いの場となる滞留空間を整備する。

- ① 滞留空間に植栽やデザイン性の高いベンチ等を設置する。
- ② 滞留空間の幅広い活用のために、設置するベンチ等は配置が変更できるものにする。
- ③ 道路上の設置物は、歩行者の通行を妨げないように配慮する。
- ④ 近隣店舗の視認性を確保するため、高さのあるものは設置しない。
- ⑤ 整備後の管理・運営は、町田市と都市再生推進法人が、まちなかの事業者の方等と協力しながら行う。

2022年度社会実験アンケートより（対象：中対協幹事）

Q 社会実験中、町田駅中心市街地の人通りや雰囲気は変わったと思いますか？

<人通り> **どちらかといえば増えた42%/**
どちらともいえない・変わらない58%

<雰囲気> **良くなった・どちらかといえば良くなった75%/**
どちらともいえない・変わらない25%

Q 今回の社会実験のような沿道を活用した取り組みは、来客数の増加や売り上げの増加などの経済効果につながると思いますか？

思う・どちらかといえば思う100%

人通りは増えた/変わらないがほぼ半数であったが、中心市街地の雰囲気については良くなったと答えた方が7割以上。また、沿道を活用した取り組みについては経済効果につながるという意見が10割であった。

【資料3】原町田大通り滞留空間整備 概略図

